

自動化されたオンボーディングと オフボーディングのメリット

社員の在職期間の管理はかなり複雑化しています。社員の異動頻度が高いことはもちろん、派遣社員や契約社員、コンサルタントやインターンが社員の大部分を占めているという現状があります。Ivanti は、全社員の在職期間全体にわたって、アプリやサービスの提供とプロビジョニングを自動化することで、発生することが考えられるすべての障害をコントロールできるよう支援いたします。



入社初日から社員をサポート

IT部門には、社員の在職期間中、社員が技術を有効活用できるよう支援することが求められています。中でもオンボーディングプロセスは特に、多くのIT部門が苦戦を強いられている領域です。さらに、IT部門は役職の変更や、クリティカルなオフボーディングプロセスへの対応も強いられています。特にオフボーディングプロセスは、社員が企業を退職する際、重要なシステムへのアクセス権を保護するために重要なプロセスです。現在IT部門は、社員の在職期間を支援する上で、主に次のような課題に直面しています。

- 社員、契約社員、コンサルタントのオンボーディング業務をする一方で、プロビジョニングや必要な IT リソースへのアクセス権付与にかなりの時間がかかること
- 社員の役職変更や退職時にセキュリティとコンプライアンスを確保すること（アクセス権を削除し、会社所有のリソースや IT 関連リソースすべてのデプロビジョニング（プロビジョニング解除）を行うこと）
- 社員が必要な時に（動的に）必要な技術ツール（IT サービス、アプリ、共有資産）を提供し、社員の生産性を最大限に引き上げること
- 企業側から IT 事業の運営管理費を削減し、運営効率を向上することを常に求められていること

Ivantiは、社員と社員に適切なアクセス権、アプリ、サービスを主体的かつ動的に一致させることで、入社1日目から社員が業績目標を達成できるよう支援します。さらに、社員の職位や役職、企業に関連する方針に基づいて、各社員の権限に適切なアクセス権をマッピングします。また、社員が退職する際は、権限および各種技術資産へのアクセス権が速やかかつ自動的に取り消されるため、企業は安全を確保できます。

企業の生産性を押し上げる

業務を遂行するために適切なサービスやアプリへのアクセス権を新入社員に速やかに提供することができれば、新入社員はそれだけ早く企業のミッションを支援するための業務を開始できます。入社後90日間は、多くの企業で新入社員に実力やポテンシャルを「証明」することが求められます。このため、世間一般の通念と研究の両方において、新入社員にとって入社後90日間は極めて重要な期間であることが示唆されています。企業を対象とした調査「Allied Workforce Mobility Survey」では、新入社員全体の25%が1年以内に退職していることが明らかとなっています。さらに興味深いことに、企業の約30%が「新入社員が生産性を最大限生かせるようになるまでは入社から1年以上かかる」と回答しています。

IT部門にとって、オンボーディングとは、社員にアカウントを提供し、業務を遂行するためのサービスやアプリへの適切なレベルのアクセス権を付与することです。

オンボーディングは、業務において社員の生産性を左右する重要なプロセスであるにもかかわらず、なぜオンボーディングを完了するために数時間、数週間という時間がかかっているのでしょうか。多くの場合、その理由はプロセスが手作業で行われているため、なかなか進まないという点にあります。また、手作業で行われていることがコストの増加や安全性の低下につながっています。

IT部門は、入社初日から新入社員のニーズを自動的に満たすことで、多くの時間と労力を要する手作業での新規ユーザー作成業務を排除する必要があります。また、社員が在職期間中、同様に速やかかつ効率的に社員のニーズを満たし、必要な時が来た時に速やかに安全かつ効率的にオフボーディング業務を行う必要があります。

問題はオンボーディングだけではない

現代の社員は流動的です。新たなニーズや異なる職責がすぐに生じます。大抵社員の役職は時間と共に変わっていきます。ところが、ほとんどの場合、役職が変更となった社員からサービスデスクチケットが発行されるまで、IT部門は社員の役職変更気付きません。社員が必要としている追加のアクセス権を付与することは非常に単純な作業かもしれませんが、不要になった場合にアクセス権を取り消す作業はどうでしょうか。この作業は、ライセンスに関連するコストを削減し、多くの場合セキュリティのリスクを回避することにつながります。もちろん、企業の方針を順守することにつながることもありません。

社員の職位や役職、企業の方針に基づいて社員のアクセス権をマッピングすることで、社員の役職が変更になった場合、アクセス権を自動的に再割り当てすることができます。また、変更はすべてIT部門に対して可視化されるため、追跡はもちろん、監査目的でも情報を使用できます。これにより、ポリシーに基づいて主要なアプリやシステムへのアクセスが適切な社員に制限されるため、不要なライセンスの使用を制限できるだけでなく、セキュリティを本質的に強化できます。

オフボーディングから手作業のプロセスを排除

アクセス権に関する最大のリスクのひとつが、不適切または不完全な社員のオフボーディングです。オフボーディングは大抵非常に手間がかかる手作業のプロセスを通して行われることに加え、社員、コンサルタント、契約社員のアクセス権すべてに関するデータに簡単にアクセスできる集約化されたレポジトリが設けられているケースはほとんどないため、さらにセキュリティの脆弱性の拡大につながっています。したがってオフボーディングプロセスを自動化することは必要不可欠です。Ivantiは、企業の資産をタイムリーに回収し、個人情報や企業情報が漏洩するリスクとシステムが不正アクセスによって侵害されるリスクを軽減するためのサポートを提供します。

Ivanti を活用したオンボーディングとオフボーディングのベストプラクティス

オンボーディングとオフボーディングを自動化することで、IT部門は多くのメリットを実感できます。この業務改善は、社員の在職期間全体にプラスの影響をもたらす、IT部門と企業の両方に価値を提供します。自動化によって得られるメリットは次の通りです。

- 社員に適切な技術を提供できるため、イノベーションをさらに促進し、競争力を強化できます。
- 接客担当社員に適切なアクセス権を付与できるため、お客様満足度を向上できます。
- 実務重視の自動化に投資することにより、新しいサービスや技術の導入を進め、投資から最大の価値を得ることができます。

- セルフサービス機能により、社員はサービスデスクを通さず、追加のアプリやサービスへのアクセス権をリクエストし、アクセス権を得られるため、社員によるシャドーIT（個人用のデバイスを許可なく使用すること）を最低限に軽減できます。

オンボーディング・オフボーディングプロセスを自動化し、セキュリティを強化することを検討されている場合には、詳細についてIvantiまでお問い合わせください。



www.ivanti.co.jp



03-5226-5960



Contact-Japan@ivanti.com

Copyright © 2017, Ivanti. All rights reserved. IVI-2044 10/17 LC/LB/BR/DH